

超少子化社会における外国人住民との共生 ～ドイツの例から考える～

日時：2014年 9月13日（土） 午後2時～4時

場所：すてっぷ（豊中市立男女共同参画センター）セミナー室 1BC
（阪急宝塚線 豊中駅隣接 エトレ豊中 5階）

お話：木戸 衛一さん（大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授）

日本政府は今後、外国人労働者をさらに増やす経済政策を打ち出しています。しかし、少子化時代の労働力不足を穴埋めする目的だけが先行し、地域社会を構成する生活者として外国人を受け入れる視点が欠けているように思われます。

ドイツは第二次世界大戦後、トルコなどから多くの外国人労働者を呼び寄せて経済発展してきました。その外国人が家族とともに定住し、ドイツ人の少子化も相まって、現在では5人に1人が外国人または移民の背景を持つ住民となっています。また、庇護を求めて押し寄せる難民を年間3万人以上受け入れて、その教育や生活支援をしています。

多様な文化を持つ人々が地域社会の一員として暮らしやすい国になるには、どうすればいいのでしょうか。ドイツがチャレンジしてきた道や抱えている課題を知り、みんなで考えましょう。

<講師プロフィール> 木戸衛一さん

東京外国語大学ドイツ語学科卒業。一橋大学社会学部助手、大阪大学教養部講師を経て現職。ライプツィヒ大学政治学科客員教授(2000～01年)。2008年ベルリン自由大学博士。現代ドイツ政治の研究を行う。また、日本での「ヘイトスピーチ」に対して、ドイツ刑法の民衆扇動罪のような歯止めが必要と主張している。



<著作>『占領改革の国際比較』共著、三省堂(1994)、クリストフ・クレスマン『戦後ドイツ史』共訳書・未来社(1995)、『ベルリン過去・現在・未来』三一書房(1998)、『ラディカルに平和を問う』共著・法律文化社(2005)、『「対テロ戦争」と現代世界』御茶の水書房(2006)、『平和研究入門』編著・大阪大学出版会(2014)など。

参加費：300円（資料代・学生は無料） 定員 40人

主催：NPO法人 国際交流の会とよなか（TIFA）

問い合わせ・申し込み：TIFA事務局

電話・FAX 06-6840-1014 Eメール:tifa99@nifty.ne.jp

後援：公益財団法人 とよなか国際交流協会

<TIFA セミナー>

世界で起こっている問題について
知り、学び、身近な問題として考
えるための講演会や学習会です